

会 議 録

会議名	第33期小金井市公民館運営審議会第4回審議会 (平成27年度 三者合同会議)		
事務局	図書館		
開催日時	平成28年1月28日(木) 午前10時～11時30分		
開催場所	小金井市立図書館地階集会室		
出席者	委員	【図書館協議会】 田中 幸夫 神成 真一 鴨下 万亀子 石田 静子 内田 美帆 船崎 尚 吉田 和夫 坂野 勝一 中里 成子 ※石田委員は2つの委員を兼ねる 【社会教育委員の会議】 原嶋 和男 柴田 彩千子 北村 景子 石田 静子 佐野 郁蔵 原田 隆司 【公民館運営審議会】 立川 明 佐々木 幸寿 宮澤 もと子 國分 ひろみ 雨宮 安雄 櫻井 章江 畠山 重信 菅沼 七三雄	
	欠席者	【図書館協議会】 藤森 洋子 【社会教育委員の会議】 古家 義伸 城 瑞江 長坂 寛 小山田 佳代 【公民館運営審議会】 今城 徹 川口 亜子	
	事務局	西田生涯学習部長 【図書館】 上石館長、西村庶務係長、栗栖主事 【生涯学習課】 石原課長、伊東主事 【公民館】 前島館長、牛込庶務係長	
傍聴者の可否	可	傍聴者数	1
傍聴不可・一部不可の場合はその理由			
会議次第	1 生涯学習部の概要について 組織及び所掌事務 生涯学習部長 2 三者の概要について (1) 図書館協議会 ・ 図書館協議会の役割、これまでの経過 図書館協議会会長 ・ 第14期図書館協議会委員の紹介 各自自己紹介 (2) 社会教育委員の会議 ・ 社会教育委員の役割、これまでの経過 社会教育委員の会議議長 ・ 第28期社会教育委員の紹介 各自自己紹介 (3) 公民館運営審議会 ・ 公民館運営審議会の役割、これまでの経過 公民館運営審議会委員長 ・ 第33期公民館運営審議会委員の紹介 各自自己紹介 3 三者共同の取り組みについて 4 意見交換		

	<p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none">・生涯学習部組織図・生涯学習部の所掌事務・生涯学習部事業概要・平成26年版 小金井の教育（抜粋）・各機関委員名簿（第28期小金井市社会教育委員、第14期小金井市図書館協議会、第33期小金井市公民館運営審議会）・2015「青少年のための科学の祭典」東京大会 in 小金井 報告書（抜粋）・2014「青少年のための科学の祭典」東京大会 in 小金井 報告書（抜粋）
--	---

平成27年度 三者合同会議

平成28年1月28日

【上石館長】 定刻になりましたので、平成27年度三者合同会議を始めさせていただきます。今回の会議は図書館協議会が幹事ということですので、図書館で事務局を務めさせていただきます。

議事に入るまでの間、司会進行をさせていただきます図書館長の上石と申します。よろしくお願いいたします。

議題に入る前に、資料の確認をさせていただきます（資料確認）。以上、配付漏れ等はありませんでしょうか。大丈夫でしょうか。

それでは、ここから田中会長にバトンタッチいたします。よろしくお願いいたします。

【田中会長】 図書館協議会会長の田中です。今日はよろしくお願いいたします。

本日の流れについて、次第を見ていただきながらお話しします。今日は11時半をめぐり、1時間半ぐらいの会にしたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

それぞれの協議会、社会教育委員の会議、公民館運営審議会も改選され今回は初めてということなので、生涯学習部長から生涯学習部の組織等について説明していただきたいと思います。

それから、会議体の長から、それぞれの会についての概要をご説明いただいて、自己紹介を各委員からしていただきたいと思います。それぞれにお会いした方も30年来の方もいらっしゃるようですけれども、初顔の方もいますし、それぞれの会がお会いすることもあまりありませんので、個人的なことでも構いません。一、二分程度で自己紹介していただければと思います。

その後、三者共同の取り組みについてということで、フリーディスカッションと言いますでしょうか、この三者の集まりでどういうことをやるべきか、やっていくのか等意見交換をしていただければと思います。

以上のような予定としておりますので、よろしくお願いいたします。

最初に、生涯学習部長から生涯学習部の概要についてお願いしたいと思います。西田部長、よろしくお願いいたします。

【西田生涯学習部長】 マスク姿のまま、申し訳ございません。皆さんには日ごろより

大変お世話になっております。生涯学習部長の西田でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、ご説明させていただきます。生涯学習部の概要ということで、お配りした資料の中で、組織と部全体の所掌事務について説明させていただきたいと思っております。大変申し訳ありませんが、全ての事業を説明すると何時間あっても足りませんので、時間の関係もありまして概要のみの説明にさせていただきます。

生涯学習部の組織につきましては、資料として皆様のお手元に生涯学習部組織図をお配りしておりますので、まずそれをごらんいただきたいと思います。

生涯学習部には3つの課と館がありまして、それぞれ課長級の職員が配置されております。それぞれの課長、館長につきましては、それぞれの協議会等で大変お世話になっております。

施設につきましては、お手元に「平成26年版小金井の教育」（抜粋）をご用意いたしました。「小金井の教育」は、私は議会答弁等に活用している大変役に立つ資料でございますが、残部がないとのことございまして、必要部分だけの抜粋をさせていただいております。申し訳ありません。

合わせまして、もう一枚「生涯学習部の所掌事務」というものもお配りさせていただいておりますので、逐次、参照しながらお話を聞いていただければと思います。

平成26年から平成27年にかけては、結構大きな変化が生涯学習部にございました。その部分を中心に、抜粋の資料を中心に説明を申し上げます。

施設の関係でございます。先程の組織図にも掲載しているところですが、まず生涯学習課関係では65ページの浴恩館公園内にある文化財センター、80ページの山梨県にございます市立清里山荘、体育施設として少々戻りますが76ページ以降の上水公園運動施設、テニスコート場、総合体育館、栗山公園健康運動センターといったところを所管しております。このうち、清里山荘、総合体育館、栗山公園健康運動センターについては指定管理者制度での運営を行っておりまして、市の直営の管理はしてございません。

次に、図書館でございます。図書館は現在、83ページに本館と別館、2つの分室、その他、西之台会館図書室、移動図書館となっておりますが、このほかに、平成26年4月に貫井北分室が貫井北センターの中に開館しております。また、貫井北分室開館後の利用者状況の推移から判断いたしまして、平成27年3月をもちまして移動図書館「あおぞら号」の運行を終了しております。その際には、図書館協議会の皆様に色々ご協議をい

ただきまして、ありがとうございました。

公民館は87ページにございますが、平成26年4月の貫井北センター内の分館開設をもって、現在は6館体制となっております。ただし、福祉会館内にごございます本館は老朽化、建物の耐震性能の関係から今年度末をもって福祉会館を閉館するという市の決定がなされましたことから、当然、その中にあります公民館本館もどこかに移動しなければならないことになりまして、今年4月から本町分館の位置に仮移転することとなっております。この件につきましては、公民館運営審議会の皆様方に大変お世話になってございます。

それから、公民館運営審議会、図書館協議会では大変議論をしていただいたんですけども、公民館、図書館が併設されております貫井北センターは開館当初から、また東センターは平成27年8月から市が設立支援をして立ち上げた市民によるNPO団体、市民の図書館・公民館こがねいに運営委託しておりまして、好評をいただいているところでございます。特に図書館分室については、貫井北、東とも委託時に開館時間、開館日の大幅拡大を果たしておりまして、開館時間は午前9時から午後7時までと3時間延長し、休館日も、年末年始等を除きまして第1、第3火曜のみと縮小しております。

概略については説明のとおりでおおよそおわかりいただけたと思いますが、それぞれの詳細な事業内容については「小金井の教育」に掲載しておりますので、後刻、ご参照いただければと思います。また、51ページからの生涯学習の概要の部分が参考になるかと思っておりますので、よろしく願いいたします。

次に、事業についてでございますが、本日は、資料といたしまして1月1日現在の事業概要を3枚にまとめたものがございますので、その中からいくつかをピックアップしてご説明いたします。

まず、生涯学習課です。社会教育委員の設置に関連いたしまして、現在はオール小金井市で策定中の第4次小金井市基本構想・後期基本計画との整合を図りながら、第3次生涯学習推進計画の策定を行っております。社会教育委員の皆様には大変お世話になっているところでございますが、本件につきましては、図書館協議会並びに公民館運営審議会の皆様にもご協力をいただいているところでございます。

市史編纂活動につきましては、平成22年度から30年度の9年間計画で新たな市史の編纂を開始しております。現状では、平成30年度の市制60周年に合わせて通史編を完了という計画になってございます。

放課後子どもプラン事業につきましては、平成14年度に発足した土曜クラブに端を發

し、子供の安全・安心の遊び場の提供、体験、スポーツ、文化活動の各種事業を地域の方々等のご協力を得ながら展開しているところでございます。

名勝小金井（サクラ）復活プロジェクトにつきましては、22年度から開始したモデル区間640メートルが整備完了しております。平成27年7月には、小金井公園正門前に人道橋である平右衛門橋が完成しております。

スポーツ振興係では、スポーツ推進委員の方々が小学校においてニュースポーツ出前教室を実施しておりますが、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を控えていることもあり、昨年度から始めた特別支援学級向け出前教室の充実を図っております。

公民館、図書館につきましては、記載の事業等を的確に行いながら、今後の方向性等も視野に、中長期にわたる計画の策定等に取り組んでまいるということになってございます。

以上、雑駁ではありますが、時間の関係で本日は説明のみに留めさせていただきまして、ご質問等がある場合は申し訳ありませんが、この会議を終了した後刻、それぞれの所管課に申し出ていただければと思います。よろしくお願いいたします。以上でございます。

【田中会長】 ありがとうございます。今あったように、ご質問等は後でそれぞれ所掌する事務へお問い合わせくださいということですので、そのようにしてください。

それでは、次第に従いまして三者の概要ということで、まず私から図書館協議会の役割とこれまでの経過を少しお話しさせていただきたいと思います。その後、各委員から自己紹介をしていただきたいと思います。

図書館協議会の役割ということで、図書館協議会は、図書館法第15条に基づいて設置しなくてはいけないことになっています。

1期2年で、現在は14期目になります。定数は条例で10名と規定されていますので、委員の構成については、後程それぞれの委員の自己紹介の中でご確認いただきたいと思います。職務というのは、図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に対して意見を述べるのが図書館協議会の役割でございます。

それでは、現在は14期ですけれども、13期のこれまでの経過をざっと説明したいと思います。

通常、図書館協議会は開催の回数は年3回で、社会教育委員や公民館運営審議会の方々に比べますと半分以下の会議ですけれども、13期では年6回と最初の規定の倍ぐらいの回を重ねました。図書館サービスの見直しという諮問等があって、1期2年の間に全部で13回ぐらい会議をしました。その中で大きな議題は、先程少し言いました図書館サービ

スの見直しに関わって、今生涯学習部長からお話がありました貫井北分室の評価について実施しました。

そして、その評価結果を報告し、図書館サービスの見直しについて諮問しました。1つは東分室の運營業務委託化をする、それから、先程も出ました移動図書館車廃止、西之台図書室のサービス拡大です。その諮問を受けまして、4、5、6、7回と結構な回数を重ねました。

結果的には、貫井北分室の業務委託が良好であるという報告を出しましたがけれども、東センターの委託予算については予算執行停止の付帯決議が出され、もう一回、きちんと評価した上で業務委託をするほうがいいのではないかという意見が出されました。もう一度、貫井北分室の評価について協議し、平成27年度、昨年9月開催で委託廃止の報告を受けております。最初、協議会としてはそんなに大きな問題があるということではなかったので、2、3回で終わるだろうと思っていたら13回も開催した訳ですけれども、13期の方には、皆さん結構忙しくやっていただきました。

その中で東京農工大学との協定について、農学部への図書貸し出しというのがあって、それは非常に良かったことではあるかなと。これまでは工学部・小金井キャンパスだけだったんですけれども、農学部・府中キャンパスでも図書の貸し出しができる、行って借りたりすることができるようになりましたので、その点は良かったのではないかなと思います。

第3次小金井市子ども読書活動推進計画について協議を13期に始めて、現在14期でも行っている状態であります。

ということで、13期の人達も大変だったんですけれども、14期はそれ程かどうかわかりませんが、最初の予定ではそんなにはないということで始まっているという図書館協議会の概要でございます。

続きまして、各委員から簡単に自己紹介していただきたいと思います。お手元の資料の各機関委員名簿の真ん中の段が図書館協議会のメンバーのものでございます。これに従っていききたいと思います。

会長をしている田中幸夫といます。よろしくお願ひします。私は東京農工大学小金井キャンパスにおりまして、健康や体育の教師です。ストレスを減らすとかいうことに興味を持ち、研究をしています。図書館というのは、自分は使うほうで、会長とかいうのはそぐわないんですけれども、ユーザーの目で見てくださいということだったので、一応、OKい

たしました。13期からやっております。今期は2期目になりますけれども、皆様方から色々教えを受けながら、小金井市の図書館がどうあるべきか、あるいはどういうふうにしたらうまくいくのかを一緒に考えさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

藤森さんが会長職務代理者ですけれども、今日は体調が悪く欠席ということです。市民公募で協議会の委員になり、この方も13期からで2期目になります。

では、神成委員。

【神成委員】 小金井第二中学校の校長の神成真一でございます。よろしくお願いいたします。

【田中会長】 では、鴨下委員。

【鴨下委員】 文庫連から社会教育団体の代表として出ています鴨下といいます。よろしくお願いいたします。

文庫は、小金井市の児童館やセンターを活用して活動しているところと個人宅を活用しているところとあるんですが、私は小金井神社のそばの「こごうちぶんこ ことりのへや」で毎月、子供達に読み聞かせしたり本を伝えたりする文庫の活動をしております。よろしくお願いいたします。

【田中会長】 石田さんはどうしたらいいですかね。

【石田委員】 どのようにでも。

【田中会長】 では社会教育委員の会議で自己紹介を。

【石田委員】 いえ、2回、挨拶しましょう。社会教育委員の会議から図書館協議会に出ております石田でございます。よろしくお願いいたします。

【田中会長】 それでは、内田委員。

【内田委員】 内田美帆です。家庭教育の向上と書いてありますが、PTA連合会から出していただいております。第一小学校と第二中学校に子供がおりまして、私自身も小金井で生まれ育ち、図書館を始め、公民館や、色々なものに小金井市ではお世話になりながら育ってきました。今、仕事も市内でしておりまして、ちょうどこの近くの前原坂上交差点にある「ゆうすい」というセレクトショップ、お洋服と雑貨のお店ですが、これも母の代から引き継ぎましてやっております。なので、特別な知識、経験があるわけではありませんが、小金井市内で生活をしつつ、子育てをしつつ、働きつつという観点で何かお役に立てればと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【田中会長】 それでは、船崎委員。

【船崎委員】 船崎と申します。私は隣の武蔵野市で図書館に、44歳の時だと思いますので16年ぐらい定年まで勤めた者でございます。それまで民間にいましたけど、図書館といいますのは私としては非常におもしろい仕事で、楽しんだと言うとあれなんですけど、その時感じたのは、色々な図書館に行きましたら、みんな同じように見えるんですけども、それぞれ非常に特色があって、思わぬところをどこの図書館に行っても見つけることができました。小金井市にも小金井市の特色があることがだんだん見えてまいりまして、そういうのを伸ばしたり新しいことをしたいというか、していきたいと。よろしく願いいたします。

【田中会長】 吉田委員。

【吉田委員】 11月から図書館協議会の委員にさせていただきました。私は、玉川大学の客員教授として教師教育リサーチセンターというところで教師の育成をしております。そのほかに大学教員等も色々やっておりますけれども、自分で四谷に事業所を持っていて、そこでいろんな教師育成の塾や言語教育等をずっとやっています。

住まいは狛江でございまして、今日はここにどうやって来ようかなと思ったんですが、この間、バスで来てえらく歩いたので、今日はどうしようかというので50ccのバイクで来てしましまして、帰りは気をつけて帰りたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

【田中会長】 では、坂野委員。

【坂野委員】 坂野でございます。今期から委員をやっております。小金井市には27年程住んでおりまして、会社勤めをしておりましたが、一昨年定年退職しまして、現在は東京都でボランティア活動をしております。

図書館は随分利用させていただきまして、去年は合計200冊ぐらい調べ物の関係で借りたということもありまして、こういう形で委員としてお返しできるのは非常にうれしく思っております。よろしく願いいたします。

【田中会長】 中里委員。

【中里委員】 中里でございます。よろしく願いいたします。最近、テレビや新聞等で、TSUTAYA図書館や駅ナカ図書館等ユニークな図書館が話題になっております。小金井市もNPO法人での運営が始まっております。こんなふうに図書館が過渡期にあるときに協議会の一人として参加できることを大変うれしく思っております。私は昔から読

書大好き人間ですので、高齢者の一人として小金井市の図書館がこれからももっともっと高齢者に優しく、そして障がい者に優しくなってもらいたいと願っております。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

【田中会長】 以上10名が図書館協議会の委員です。

それでは、小金井市社会教育委員の会議から、概要と自己紹介をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【原嶋委員】 おはようございます。原嶋です。よろしくお願いいたします。

社会教育委員の会議は、社会教育法第15条に基づき設置。1期2年、現在は28期目ですね。後で自己紹介がありますが、10名で構成しているということです。

私どもの職務は大きく分けると3つで、そのほかいくつかありますけれども、まず1つは社会教育に関する諸計画を立案するというところで、前の中村議長を中心に、現在は第3次生涯学習推進計画。ちょうど私がこの期に入ってきているので、ラッキーといえばラッキー、大変だといえば大変ですよ。昨年中村議長のもとにおいては、これをひたすら眉間にしわを寄せながら色々審議させていただきました。ようやく見通しがついてきたということで、今年1月にパブリックコメントが締め切られまして、来月、社会教育委員の会議でもって審議する予定であります。大きなものは諸計画の立案ですね。

次に、教育委員会の諮問に応じて意見を述べる。全8回の開催をしていますけれども、その中では場合によっては視察もやっています。昨年、一昨年はこの策定に基づきましてかなりの回数を重ねたと記憶しています。今、お話ししました教育委員会の諮問に応じて意見を述べることに必要の研究調査を行うということが3つ目です。

あと、社教法にのっとりまして「意見を聴いて行わなければならない」という規定がありますので、補助金の申請があった場合に審議する場面もあります。東京都市町村社会教育委員連絡協議会というのがありまして、私どもは、小金井、武蔵野、三鷹、府中、調布、狛江の第5ブロックの中での研修会を行っています。私みたいに社会教育に対して疎い者、素人については、こういった研修が非常に参考になってきていると思います。これらが主なものであります。

研修会に出ますと、こういった座学ばかりではなく、行動する社会教育委員というのをよく耳にできております。限られた会議の数ですけれども、教育委員会の相談あるいは助言を受けながら、私どもはこの期限りだけど、2年間で何か先が見えるようなところできないのかなと、提言なり何かを模索できたらいいのかなと思っております。ようやっ

と3月に計画が上がりそうですので、その後、僕達が協議しながら、模索しながら何かを進めていくことを2月に予定しているところです。

以上が社会教育の概略であります。

続きまして、先程の各機関委員名簿で自己紹介に入ります。

原嶋と申します。社会教育委員の会議の議長をしています。今やっているのが体育協会の会長で、大丈夫かなとむしろ不安を持ちながらやっています。

体育協会はどうもアスリートだけの協会だと言われていますが、そうではないですね。幼児のため、若い人のため、ヨガコースやシニアのため、これからは65歳以上が4分の1になるということもありますものですから、そういったことも焦点に当て、多くの人にスポーツを楽しんでもらおうということでイベントを構成しております。市報等でご覧になっていただければよいのかな、積極的に応募していただければと思います。この機会にちょっと宣伝させていただきました。

私自身は、学校教育にずっと長くおまして、こういう形の中でお仕事をさせていただいております。この会議は学会でもないし、かなり込み入った専門部会でもない。それぞれ関係団体の方がいらっしゃいますから、あまり眉間にしわを寄せたりなんかしないで、伸び伸びと活発な議論をしていく、そのこと自体が私どもの研修会になっていくんじゃないか、それが僕の議長としての役目なのかなとは思っています。よろしくをお願いします。

続きまして、いらっしゃった方、右から時計回りでよろしくをお願いします。

【柴田委員】 今期から社会教育を仰せつかっております東京学芸大学の柴田と申します。よろしくお願いいたします。私は、社会教育関係の生涯学習教室に所属しております。

今は他市に在住しているんですが、今年の春から小金井市に移ってまいりまして、小学生の娘の子育てをしながらこちらで生活してまいりたいと思っていますので、一住民としてもこれから社会教育にかかわっていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

【佐野委員】 市民公募で社会教育委員になりました佐野郁蔵と申します。よろしくお願いいたします。お年寄りから子供までに接する機会をいただいておりますので、そういう経験を少しでも小金井市の方に生かせればいいかなと思っていますので、よろしくお願いいたします。

【原田委員】 同じく公募市民で今期から委員になりました原田隆司と申します。よろしくお願いいたします。

先程の図書館の坂野さんと同様で、おとし会社員生活を終えまして、無職のおじいさんになりました。小金井市内のまちなか歩きのボランティアをしたり、趣味の暮らしをしているんですけども、25年、小金井市に住んでおりますので、何かこの市にご恩返しをしたいということで、ただいま勉強中でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

【石田委員】 2度目の自己紹介の石田でございます。

母体は国際ソロプチミスト東京-小金井というボランティア団体です。ソロプチミストというのは職業を持つ婦人の集まりのボランティア団体で、アメリカを発祥としております。ですので、私も仕事を持っておりまして、東町で櫻芳菴という貸し茶室を営んでおりまして、裏千家の茶道教授をしております。よろしくお願いいたします。

【北村委員】 北村景子です。P連からの出向で来ています。二小に子供が2人います。社会教育って何、というところから始まりまして、最近、やっと少しずつわかってきたところですが、たくさん色々なことを勉強させてもらえて楽しいです。今までどうしても主婦の中で生活してきたので、色々な方と話す機会がなかったんですけど、色々な方と話しているうちに、皆さん元気だなと思うようになって、実は今年の1月、正月が明けてから早朝ランニングを始めました。体力をつけてもっともっと頑張っていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【原嶋委員】 以上です。

【田中会長】 ありがとうございます。よろしくお願いいたします。それでは、公民館運営審議会、お願いいたします。

【立川委員】 委員長をさせていただいている立川と申します。まとめることが非常に苦手で、わからないところがありましたら、会議後に質問いただければ、わかる範囲でお答えさせていただきます。よろしくお願いいたします。

まず、役割は大きくは4つございまして、1つ目は公民館事業の報告や計画についての審議、2つ目が東京都公民館連絡協議会、都公連というところに、順繰りですが1人ずつ月に一遍、参加しております。3点目が、公民館を良くするための方策等を検討しております。4点目に、館長からの諮問があれば、それに対する答申を行っております。以上、4点を大きな事業として行っております。

次に、これまでの経過です。現在、第33期ということで、1期2年ですので非常に長い歴史があります。

昔からの歴史をずっと振り返ってという程私もわかっておりませんので、最近の状況を

ざっとご説明させていただきますと、北分館ができたことは皆さんご承知のとおりですが、そこで6館という状況になりまして、昔から小金井は暗黙の5館体制ということでしょうか、今、福祉会館に本館があるんですが、本町分館に仮移転するというので、本館機能は、そのスペースを本町分館で使っているものですから、今は4.5館体制ぐらいになっているのかなと思ひまして、今後も、本館機能のスペースをどこかに確保していただかないと5館体制になってないんじゃないかなと思ひているところです。

私どもは年間10回ぐらい会議を開いております、10人で構成されております。そんなところです。

次に、自己紹介に移ります。

私は商工会から公民館運営審議会に出させていただいております、プレミアム商品券が去年ございましたが、その発行副委員長をさせていただきました。売れ行きが良く、おもしろい事業だったと思うんですが、政府のたまたまのばらまきなので、今年はないのかなと思ひしております。

あとは、地域交流委員会というところで、小金井公園や江戸東京たてもの園のイベント関係をずっと手伝わせてもらっています。

私自身は設計事務所をやっておりますので、新築がありましたら(笑)。本当は佐々木委員長がいいなと思ひておったんですけど、佐々木先生は副委員長以外であれば公運審をやってくれないということで、3期目は私しかいなかったのが私が委員長ということでさせていただいておりますが、早く交代してください(笑)。変えていただければという気持ちでいます。うちも時計周りで…。

【佐々木委員】 佐々木幸寿と申します。よろしくお願ひします。東京学芸大学から、中々後継ぎがないということもありまして、私も4期目になってしまいました。私の専門は教育行政ですので、教育の法律や行政等を研究しております、主に学校に長く入ったり、教育委員会に入って研究していたんですが、社会教育や公民館に入ってござりまして、仕事にとっては非常に参考になるんですかね。そういう意味で非常に有意義な体験をさせていただいております。大学は小金井市と本当に密接に連携してござりまして、科学の祭典でありますとか、最近北センターができましたので、教員も学生も非常に活用させていただきます。この度はよろしくお願ひしたいと思ひます。

【宮澤委員】 団体推薦の宮澤もと子と申します。団体といたしましては小金井市文化連盟、お茶、お花の会でありまして、私は池坊でお花をやってござります。公民館も利用さ

せていただいて、本町分館でも、幼児からお年寄りまで出入りしております。27年になります。

それから縁あって、このたび都公連、東京都公民館連絡協議会の意見交換に参加させていただきます。30日に第2回研修会がございますので、もしお時間がございましたら、電話していただければうれしいと思います。公民館をわかっていただくためにもよいかと思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

以上でございます。

【櫻井委員】 櫻井章江です。よろしく申し上げます。昨年、東中学校でPTA役員をやっていた関係で、公民館運営審議会に出向という形で委員をさせていただくようになりました。

東小と東中と高校にそれぞれ3人子供がいますけど、公民館はあまり利用したことがなかったもので、どういうことをやる委員なのかもわからずなりましたが、これから会議や研修会等がたくさんあるので、それに参加して勉強していこうと思います。よろしく申し上げます。

【畠山委員】 公募市民として審議会に応募いたしました畠山と申します。

私は長年、貫井南町に住んでいましたし、今もいるんですが、いわゆる地元の人達の、実際公民館って何だ、公民館って誰のものかという素朴な質問に、私もちょっと自分では答えられないなど。実際図書館もそうですけれど、私も利用者の立場ですから、図書館の北分室に行っても、あまりそろってないなどか色々な疑問も聞こえてきます。ただ外野から見ていただけではなくて、中に入って、実際、公民館って何なんだということで、今回公民館運営審議会に応募して1期目になります。自分としても、市民の立場、また納税者の立場として、公民館というものをきちっと多くの市民に理解、納得できる形で運営していかなければいけない。これから5年、10年後に公民館はどうあるべきかも含めて、これから先、立川委員長、館長、いろんな意見を聞きながら、理想的な公民館になるように少しでも貢献できればいいなと思って頑張っていこうと思っております。よろしく申し上げます。

【雨宮委員】 社会福祉協議会から出向されました雨宮安雄と申します。社会福祉協議会では今副会長をやっているんですが、身体障がい者関係で会長をやらせていただき、私はどちらかというと弱者を応援したりする立場にあります。

私の身体障がい者協会でも、リハビリのためにカラオケをしたり、今、スポーツ吹き矢

をやらせているんです。ずっと手が上に上がらなかった人がだんだんと上がってきたという実績があります。体協の原嶋先生、今度、2020年のパラリンピック・オリンピックがありますので、うちのスポーツ吹き矢も、私は東京都身体障害者連合会のスポーツ部長もやっていますので、スポーツ吹き矢で参加できればなと思って、体協にもそのうちお伺いしようかなと思っているんですけれども、ご記憶の程お願いしたいと思います。

私は公民館を利用しますが、こういうような会は苦手で、口下手でシャイなものですから何もできないんですけれども、公民館をなるべく皆さん、市民の方々に使いやすいものにしたいと思っています。よろしくお願いします。

【國分委員】 上から5番目に載っています國分ひろみと申します。

団体推薦です。早稲田大学小金井稲門会、卒業生の会です。実際に私がこの中で主にやっておりますのは美術展の企画、開催、市民公開講座の企画、開催といったことで、自身も書の作品を制作し個展もやっております。

その中で、学芸員資格の必要性を感じ勉強しておりましたら、生涯教育というキーワードに出会いまして、それとの関連もあって、こちらに入れていただきました。ですので、行動的というか、具体的な文化活動を通じて何かできないかみたいな視点でございます。よろしくお願いします。

【菅沼委員】 公募市民から公民館運営審議会委員になりました菅沼七三雄でございます。よろしくお願いいたします。私は社会教育、特に公民館とのつながりは10年ぐらいになりまして、5年前から本館を主体に企画実行委員をやっておりました。

それから、2年前に貫井北でNPOへの委託が始まったんですが、そこの理事をやっておりました。今年の公民館運営審議会委員になる際に、理事との兼任はまずいということで辞めまして、公民館運営審議会一本でこれからやっていきたいと思っています。

貫井北等を見ておきますと、公民館も公民館だけで考えるんじゃなくて、やはり図書館とのコラボも考えなければならないし、もう少し広い意味で社会教育を考えてみたいと思っていますので、今後ともよろしくお願いいたします。

【立川委員】 今日、欠席の第一小学校長の今城徹さん、市民公募の川口亜子さんのお二人がいらっしゃいます。

以上です。

【田中会長】 それぞれの機関から自己紹介、活動等についてお話がありました。ありがとうございます。

続きまして、議題3、三者共同で何かできないかという取り組みについて、フリーディスカッションですけれども、こんなことができるんじゃないか、こんなことを目指してみようかというのがありましたらお話ししていただければと思います。取っかかりはないんですけども。

【上石館長】 もしなければ、資料におつけしている「青少年のための科学の祭典」について、初めて委員になられた方でまだ経験なさってない方もおられると思うので、こちらの事業の説明を会長から。

【田中会長】 これまで三者で、科学の祭典の対応をやっていただいていたまいりました。皆さんのお手元の資料に報告書の抜粋が入っていると思いますけれども、それぞれ社会教育、公民館、図書館で出し物を出して、1部屋を借りてしていただいた。

報告書の9ページにありますけれども、公民館では「昔遊びの科学」ということで、ここに書いてあることをしていただいております。図書館では「みなさんに読んでいただきたい100冊」ということで、それぞれの委員から10冊ずつ推薦して100冊を並べさせていただきました。社会教育委員からは「色が変わる不思議なテトラを作る」ということで、それぞれの機関から出していただいて、こういうことをやっていただいていたんですけども、これが3つの機関でやっていた全てで、お互いでコラボというのはなかなかなかったわけです。

今年もこれでどうなんですかというのはあるんですけども。

【上石館長】 そうしましたら、ソロプチミストで関係されている石田委員から、補足説明をお願いいたします。

【石田委員】 では、少し説明させていただきます。

今年の予定は10月9日日曜日、学芸大学のS棟とN棟を使って。資料ができていますが、部数がなくて皆さんにお持ちできなくてすいません。

運営資金は小金井市からの交付金50万円と企業出展の参加費、そして個人の協賛者、この大会に賛同した方からの寄付金で賄われております。

ソロプチミストが事務局を担っておりまして、今年は4名でやりますが、事務局がきちんとした団体であるため、事務局で市からの交付金を受け取るという役目を担っておりまして、この会を運営しております。ですから、全てボランティアです。

昨年は100のグループに参加していただきまして、参加人数が1万755名になりました。初めて1万人を超えました。10月という季節柄もあったと思いますが、参加者が

引きも切らずに参加してくださいまして、子供達がとても喜んで作ったものを持ちながら帰る顔を見ますと、とても大変だったけど良かったな、という達成感を持ちながら、今年も10月9日のために始動しております。

10月9日に向けて皆さん今から日程を空けていただいて、できるだけ参加していただいて、当日1つの教室で3ブース使いますので、この3つの団体で1つの教室を使うことが多いんです。参加者が多い方が交代もできますし、色々助かりますので、ぜひ日にちを空けておいてください、というお願いをしたい。

10月9日という報告ができるところで、あとは何かありますか。よろしいですか。

【田中会長】 ありがとうございます。

3つでやっているんですけども、こんな感じで1つの部屋でそれぞれが独立してやっているようなところです。図書館協議会としては、協議会自体の開催回数が少なく、中々それに充てる時間も大変でして、中身も含めてどういうふうに関わったらいいのか、まだ結論は出しておりませんが、今、思案中ではあります。公民館や社会教育では物を作ったり、手を動かしてもらおうというのがあるんですけど、今のところ、図書館では本を並べている、公民館と社会教育に来た人を呼び込んでいくという状況なので、どういうふうに関わったらいいのかというのは唯一、今考えているところではございます。

【立川委員】 科学の祭典の延長線上ですが、昨年の反省会で当日、言いましたけれども、高校生なんかは朝から来てくれて、自己紹介もきちっとできるんですが、午後から中学生が知らぬ間にいたりするので、中学生をコーディネートする先生にはお願いして、午後から来てでもいいんだけど、「私、午後から来ましたが、何々中学の誰それでございます」とちゃんと挨拶するように言ってくださいねと言ったんです。中学生だと言にくい子なんかもいると思いますので、3団体においては、そういう子供が来たときには明確に受け入れてあげて、一日であろうが半日であろうが、名前も知った形で気持ちよくできればなと思ったので。

昨年のときも気がつかなくて、最後に、あ、いたのねみたいな感じで、かわいそうな半日を過ごしたなと思いましたので、この3団体においてはその辺に十分に気を使ってあげればよろしいかなと思っております。以上です。

【石田委員】 今の中学生の話ですが、生涯学習課を通じて中学校に声をかけていただいて、応募して下さった方が各ブースに派遣されているんですね。

ですから、そういうボランティアに参加しようという気持ちと何かをしてみたいという

気持ちを持った子が応募してきてくれていまして、それは生涯学習課で全部まとめてくださっています。できるだけボランティアを使っただく。そして同時に、入場整理や何かじゃなくて、実験とか作業の説明をさせてあげる。

今日、お持ちできればよかったんですが、今年は40ページですので、この冊子の中に中学生の感想、高校生のボランティアの感想が出ています。ですから、どこかでそういうものを目にするようにしていただいて、使っただけならと思います。

【田中会長】 貫井北センターができたことによって、図書館と公民館活動が一緒になってやっています。それから、市長が替わりまして、今後どういうふうな市長とのというか、図書館等は公約では一緒にするようなことをおっしゃっていたので、今後ますます、それぞれが独立してというよりは一緒になってやっていく機会が多いんじゃないか、先程出ましたけれども、図書館は図書館で、公民館は公民館で、というのじゃなくなってくるんじゃないかなという気がするので、ますます社会教育と一緒に全体が動いていくみたいな形にはなっていくんじゃないかなと思います。

そういう意味では、この会が2回あるんですけども、年ですか、期ですか。年に2回？

【上石館長】 年2回です。大体5月に三者懇談会で、今年は今になってしまいましたけど、11月ぐらいに合同会議ということで、年2回は皆さん、三者で集まっただく機会があります。

【田中会長】 原嶋会長は何かないですか。

【原嶋委員】 一生懸命、考えているんですが、ここでふっと出ない。

【田中会長】 三者で何かやりましようと言っても、中々ぼんぼん出てこないとは思いますが、今、言ったように何かが起こりつつあったら、そういう方向にまたいくと思いますけど。

【立川委員】 昨年の会議の記録はないんですかね。話が終わってないような、延長になるような議題があったような気もしたんですけども。

(この時点で議事録内容の確認がとれないことを確認)

【原嶋委員】 去年、田中会長の得意分野をやっていたのは、あれはそうですね。

【田中会長】 何か講演とかをやれと言われた。

【佐々木委員】 公民館はNPOにも委託が始まって、今後、スタッフを増やしていけばよさそうな感じがしているんですけども、本当に展開していくのはほかの部会にご協

力いただく。図書館等も同じだと思うんですけども、それでNPOに対する感想といったものを交流してみてもいいのではないかなと。

【田中会長】 北センターのお話で、例えば図書館の利用状況とかありましたら、ちょっとお知らせしていただいて、ご意見を伺うような時間に。今日はここにはないんですけど、資料が何かありましたよね。資料提出。

【上石館長】 そうしましたら、図書館の貫井北分室の経過。

皆さんご存じかと思いますが、平成26年4月にNPO法人市民の図書館・公民館がこがねいに委託し、利用者数を発表いたしますと、全体で25万3,916人のうち、貫井北分室が7万1,254人です。それだけ多くの方に利用されました。貸出冊数も26万3,956冊となりまして、全体で95万2,703冊のうち26万冊貸し出したということで、とても多くの方に利用されております。

貸出冊数だけではなく、たくさんのイベントをしていただいております。というのは、職員が11人いますが、全員、図書館司書でありますので催し物の数がとても多くて、月1回以上、やっけていただいております。先程ビブリオバトルというチラシもありました。こちらは大変新しい催しで、知的書評合戦といまして、ご自分が好きな本1冊を持ち寄って、5分間でその魅力を話し、参加者、観覧者がどの本が一番読みたくなったかというゲーム感覚の書評合戦で、こちらはまだ市町村のレベルでいきますと開催しているところがあまりないんですけども、貫井北においてはいち早く取り入れていまして、公民館との共催、連携事業でやっております。

そんなことで、小金井市の北西部にはこういった施設がなかった、緑センターが開館してから23年ぶりの施設だったということもあって、地域のとても多くの方に大変喜ばれているということです。昨年8月から東センターも同じ法人に委託したことは先程生涯学習部長からお話がありましたけれども、同じ法人でまた市民サービス向上、図書館については、先程言いましたとおり、年間約50日の開館日が増えました。時間数でいくと約1,300時間増えました。一日3時間ですけども、積み上げますとそのような多くの時間数、開館日を増やして、喜ばれているということです。

ただ、東センターに関しましては、昭和62年に開館していますので、建物がとても古い。ただし、伝統はそれなりにあります。公民館においても伝統を培ってきた。図書館もとても小さい分室なんですけれども、小さいながらこつこつと地域の皆様に愛されてきたというところを引き継いでいただいて、今、順調に企画をして、何も問題がない状態でや

っております。これからまた図書館協議会等で検証ということもあろうかと思いますが、26年4月に北センターオープンで、昨年8月から引き続き同じ法人に委託しました。今段階で、図書館においては問題がないというところで進んできております。

私どもも色々なご意見をいただきまして、展開が早過ぎるのではないかというご意見は真摯に受け止めながらも、市民サービスの向上について、図書館、行政側としてはこの方法でやっていくのでということで、協議会委員にもご意見をたくさんいただきながら何とかやっておりますが、本当に順調に進んでおりますので、心配はないと私から今の段階で意見として言わせていただきます。

公民館は公民館長からお願いしたいと思います。

【前島館長】 では、手短に。

公民館では、通常の今まであった成人学校、高齢者向けの講座はやっていました。ご存じの方も多いかと思うんですが、貫井北では若い人達の活動場所として、若者コーナーという自由に入出りできる場所から派生して、講座等もかなり積極的にNPOで取り組んでいただいております。中々取り入れるのが難しいところもあるんですが、徐々に広がってきていると聞いております。これは公民館としては新しい形なのかなと思っています。そういった意味でも、東分館でもそういった形を徐々にでも広げられたらなという思いで、私どもは東センターにも拡大させていただいております。

職員の方には専門的な考え方をお持ちの方が多く、私ども公民館がやっているよりも目新しい感じの講座も多く実施されております。そういったこともご存じと思うんですが、まだまだ今後、その辺を含めて、今、佐々木委員のおっしゃっていたように皆さんから感想がいただければ私達も幸いですので、よろしく願いいたします。

【西田生涯学習部長】 では、1つ追加で。

ご承知のとおり、市長が小金井市の場合は12月18日に替わっておりまして、西岡真一郎新市長になりましたが、東及び貫井北の両センターについては現状のままの運営で続けていくという方針でございます。つけ加えさせていただきます。

【坂野委員】 NPOの委託につきまして、利用者の立場から1つ補足で申し上げます。

私は図書館を20年以上ずっと利用してきまして、貫井北センターは開設してからすぐに利用しております。大きく違ったことは、受付の対応が非常によくなりました。とりわけ嬉しいことは「ありがとうございます」という声です。まさに図書館はサービス業ですので。サービスを使っていたら、通常は「ありがとうございます」と言っていた

けます。これは非常に助かりますし、非常に気持ち良く借りられます。また、非常に気を回していただいて、いつも絶えずカウンターには2人いらっしゃるんですが、二、三人同時に行くことがありましてもきちんと処理していただける。これは、当初から使っていて、非常にありがたく感じています。

(利用者)アンケートは貫井北ではとっているんですけども、回収数が107件で有意性がありません。私は楽しいものと思っているので、もっともっといいものを(広めて欲しい)と思っております。したがって、非常に満足しているということですね。

ただ、その逆で、それまで(の対応)が悪かったと言うつもりはありません。非常に快適な環境で楽しめているということも補足しておきたいということでございます。

【原嶋委員】 社会教育も、11月28日に狛江で先程言った5市のブロック研修会があって、貫井北センターも話題になりまして、要は中学生の居場所づくりという特化されたものなんですね。利用頻度は図書も含めて高い。だから、今後、青少年の居場所が子供達の企画、立案等々でなっている場合に、その辺の視点の中で、中学生だけではなくて社会教育委員の立場としてどういうふうに関わっていくのか、検証するときになったら、情報としてまた勉強させていただければと思っております。

以上です。

【西田生涯学習部長】 ビブリオバトルのチラシを見ていただいてもおわかりになると思うんですが、これは「図書館貫井北分室・公民館貫井北分館連携事業」と明記してあります。

こういう形で図書館、公民館が共同で何かをやってきたというのは、確かに今までなかった話で、何を連携しているかという、ビブリオバトルは結構若い人も興味を持たれて来られるんですね。だから、公民館に来られた方を図書館に、図書館に来られた方を公民館にという相互作用が働いているようです。公民館でも図書館でこういうことをやりますよという宣伝をしながら、公民館も図書館も若者の居場所づくりに貢献している。東もちょっとずつやろうというところがありますけれども、貫井北センターはそういうのも特徴になっていると考えているところです。

【田中会長】 こういうのは、チラシがありますけれども、その日に直接行って、じゃあ、という感じなんですか。

【西田生涯学習部長】 今回はグランドチャンプ大会といって、今まで何度もビブリオバトルを開催してまして、今回は申し込み等ではなく観覧なので、40名、申し込みを

すれば小学生以上の方に見ていただけるということです。

ただ、ビブリオバトルは知的書評合戦と呼ばれるもので、バトラーという、この本がいきなり研究発表される方が何人も出てこられて、それを審査員みたいな形で審査してチャンピオンを決めるものですので、普段は私が発表したいという方の募集をしているところです。

北センターに関しましては、既に何回やっていましたかね。4回ぐらいやっているかな。

【上石館長】 今年度3回やっています。

【西田生涯学習部長】 東もこの間、やったのかな。

【上石館長】 はい。

【西田生涯学習部長】 そういうことで、小金井市の図書館の特色になりつつあるものになっている。

【原田委員】 質問ですが、ここに「理事長杯」と書いてあるんですけど。

【西田生涯学習部長】 これはNPOの主催です。

【原田委員】 NPOの理事長杯。そうすると、費用はどうしているんですか。

【西田生涯学習部長】 費用は、NPO法人に我々は委託をしています。その中から捻出させていただいてやっているのではないかと思います。

【神成委員】 学校は日ごろから非常に地域に支えられている。特に近年は国でもチーム学校ということで、学校に関わる様々な分野の方達が学校を支える、その支援をする人材を育成するんだということで、大学等はそういう観点でカリキュラムを変えていったりというのが、このところ進みつつあります。また一方で、障がい者差別に関する法律が4月から施行されるということで、皆様ご承知のように、障がいがある人、ない人が一緒に活動をとるところが1つ、大きな視点になってくるのかなと。

特に私がここへ来てすごいなと思ったのは、国際交流の運動会は今年、第2回目でしたでしょうか、総合型地域スポーツクラブ黄金井倶楽部でやっていた。ああいうところは、やはり地域にお住まいの外国人の方に目を向けられて、また地域と一緒に支えている。私は東京都中学校体育連盟の副会長で、色々なスポーツの部活動の大会を運営させていただいている立場なんですけれども、今、21の競技が中学生にはあって、その中で障がいがある生徒に関する記述を大会要綱に記載している競技があるか調べましたら、どこにもない。

要するに、最初から障がいがある子供たちを受け入れるという気持ちが中々競技にない。オリンピック・パラリンピックということで、これを機会にもう少し障がいがある子供たちに目を向けていただけないかと、11月には1都7県の体育連盟の会長、副会長の会議で話をさせてもいただいたんですけども、東京都に限らず、ほかの関東7県の会長等も、やはりそういう視点は県でもなかなかないと。広く言えば、国レベルあるいは都県レベルでもやっと少しずつ動き始めているかなということで、ぜひ障がいがある子供、ない子供にかかわらず、別々にやるのではなくて、何か一緒にできる活動を支えていただけると、これからもっといいのかなとは感じております。

以上です。

【佐野委員】 関連で、社会教育委員の立場ではないんですけども、私は青少年健全育成の活動をやっております、うちは運動会を4月にやるんですけども、その運動会に障がい者の方を招いて一緒にデモンストレーションをやっていただきまして、接する機会をつくったらどうでしょうかという提案を2年程続けてやっているんですけども、大人の間ではなかなか受け入れてもらえないんですね。

私がなぜこれを言うようになったかという、ソチだったですかね、パラリンピックで日本の選手が向こうに行って、団長が言っていたんですけども、「ヨーロッパの人は障がいがあってもなくても同じように扱う。けども、日本は違うんだ。我々は偏見の目で見られるんだ」というコメントが日経新聞に載ったんですね。私は、それを読んでいまして、これはやっぱり子供の時からそういう方と接するチャンスをつくらないと、大人にいくら言っても、頭ではわかっていても、実際に感覚として、感情としてなかなかわからないんじゃないかなと思ったもので、子供の時からそういう人と接する機会を持つてあげることが大事なんだなと。

要するに、差異を認めて理解するという運動をやっていかないと、やっぱり難しいかな。そういう点で、2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されるので、非常にいいチャンスだなと私は考えてちょっと提案させていただいたんですけども、中々難しかったというのが現状です。

パラリンピックで色々な競技をされるのに、義足をつくっている白井さんという方と接する機会があって、色々ご相談したら、向こう側からは協力しますよというお返事をいただいたんですけども、受け入れる大人が中々理解を示していただけなかった。私のアピールが悪かったのかもしれないんですけども、今、校長先生のお話をお聞きして、そう

ということがあったことをちょっと思いましたので、また何か機会がありましたら、学校関係でもそういうチャンスをつくっていただければ何かご協力できる部分もあると思いますので、その節はひとつよろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

【田中会長】 何か、この機会ですので。どうぞ。

【吉田委員】 ビブリオバトルの話が出てきたので、お話しさせていただきます。

私は校長の時に新宿の四谷中学校の校長をやっております、その地域にある四谷図書館が主催というか協賛して、四谷中学校と新宿中学校と四谷図書館がビブリオバトルをもう何年もやっているんですね。

別に本の宣伝をしているわけじゃないですが、最近私が編集した本があるんですけど、そこにも載っているんです。その読書活動は今度ご紹介しますが、要するに読書活動としてビブリオバトルをやっている。何が珍しいかという、地域の図書館が学校と連携している。

私は今、町田の社会教育委員をやっております、生涯学習と学校をつなげる仕事を随分していて、そういう冊子も、今「社会教育」というところに書いているんですが、これからの一つのテーマは、こういう公民館、図書館、もちろん生涯学習も、その枠組みと学校教育をつなげることだと思っています。特に神成委員と僕はたまたま30年来の知り合いであったんですけども、学校でやれることと地域でやれること、社会教育でやれることがある程度クロスオーバーしている部分があるし、お互いに助け合ってやればいいかなど。一つの実例として、こういうビブリオバトルみたいなものを公民館で学校と一緒にやれるみたいなことが出てくるといい。もちろん、あまり学校に迷惑がかからないように、公民館主催でやっているんですね。ですから、そういうことができればなと思います。

ちょっとお聞きしたいのは、僕は小金井はよくわかりませんが、NPOの主催でやって、そのNPOはどういう主体で、どんな組織なのか教えていただきたい。これはまた後で個人的にでも結構ですけども、図書館をやっているNPOは、TRCとかいう法人ではなくなっているのかどうかだけ教えてください。

【西田生涯学習部長】 先生、では会議終了後に。

【田中会長】 よろしいでしょうか。どうしても発言しておきたいことがありましたら。

三者共同の取り組みというのは非常に広い部分でもあり、実際にはもう行われている部分もあるわけですけども、今後も何かの機会があるたびに、協力関係を持ちながら小金

井市のために何かできればいいかなと思っております。

ちょうど時間となりましたので、三者の皆様での合同会議は1回目なんですけれども、終了させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

— 了 —